

計画の名称：国見町歴史的風致維持向上計画(第2期)

主 体：福島県国見町

計 画 期 間：令和7年(2025)度から令和16年(2034)度

序章 計画策定の背景

1. 計画策定の背景

国見町は、奥羽山脈と阿武隈高地の山々に囲まれ、阿武隈川水系により形成された福島盆地の北縁部に位置する。盆地特有の気候と自然が生み出す大地の恵みにより原始・古代から人々の営みが連綿と続けられてきた。

町内には、文治5年(1189)、藤原泰衡が源頼朝の率いる鎌倉軍を迎え撃つために築いた阿津賀志山防塁(国の史跡)や、鎌倉・室町時代をとおして伊達氏に関わる遺跡が残されている。また、江戸時代ににぎわいを見せた奥州街道・羽州街道の宿場町、また各地で受け継がれる信仰や祭礼など、往時を偲ばせる遺跡や建造物、この地で培われてきた人々の知恵や文化などが現在でも多数残されている。

平成20年(2008)5月に、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(平成20年法律第40号)」(以下「歴史まちづくり法」という。)が制定され同年11月に施行された。本町は、上記の豊かな歴史・文化を活かしたまちづくりを、平成23年(2011)に発生した東日本大震災からの復興を進めるまちづくりの一環として位置付け、同法に基づき平成27年(2015)2月23日に第1期計画となる「国見町歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、10年間にわたって歴史まちづくりの事業に取り組んできた。

歴史的風致維持向上計画(第1期)の主な取組としては、情報発信拠点(道の駅)、文化財ガイダンス施設(文化財センター)、阿津賀志山防塁歴史公園(歴史公園)の整備を行い、各施設が、周遊の起点又は拠点となり交流人口の大幅な増加につながった。さらには無形民俗文化財に対する活動支援、案内ボランティア育成、歴史を活かしたまちづくり推進事業で、住民主体・協働による活動の定着が図られ、団体活動の活性化や継続性ととともに、担い手の増加につながる事となった。また、歴史文化遺産の調査にもとづき、新たに町指定文化財・国登録有形文化財に5件が指定・登録され、国史跡「阿津賀志山防塁」の追加指定が進み、文化財の保護・継承につながっている

一方で、令和元年(2019)の東日本台風、令和3・4年(2021・2022)の福島県沖地震など度重なる自然災害とコロナ禍による影響は大きく、さらに令和4年4月には国見町が過疎地域指定を受けている。地域の活動の担い手不足はより加速化しており、良好な歴史的風致を形成していた歴史的建造物の維持や、活動継続が難しくなっている状況もある。次代の人材育成に関する課題の解決には至っていない。

これらを踏まえ本町では、歴史を活かしたまちづくりから波及する交流人口の増加や、歴史的建造物等の利活用による地域活性化を図るとともに、歴史まちづくりに関する担い手の育成を図り、本町特有の歴史的風致を次世代に伝え引き継いでいくため、「国見町歴史的風致維持向上計画(第2期)」を策定する。

2. 計画の期間

本計画の期間は令和7年(2025)度から令和16年(2034)度の10年間とする。

3. 計画策定の体制

本計画の策定体制は次頁のとおり。企画調整課地域振興係において作成した素案を基に、国見町総合計画管理本部設置要綱に基づく政策別委員会である国見町歴史的風致維持向上計画検討委員会(庁内組織)に意見を求め、相互に連携をしながら素案の検討を重ねた。

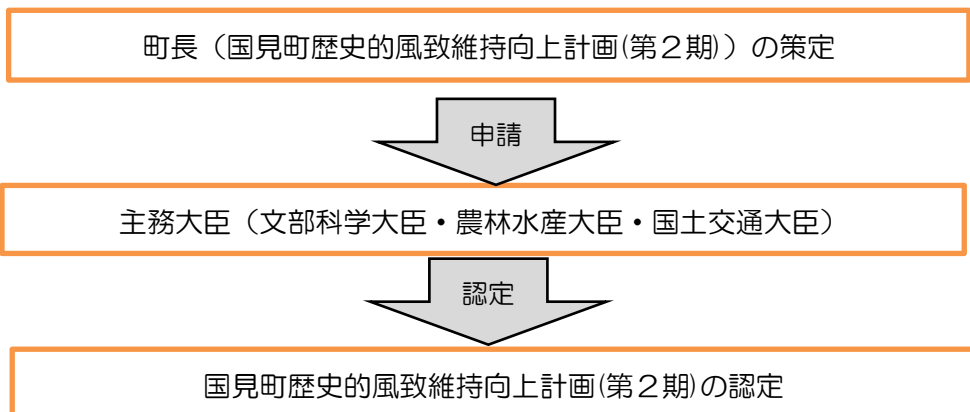
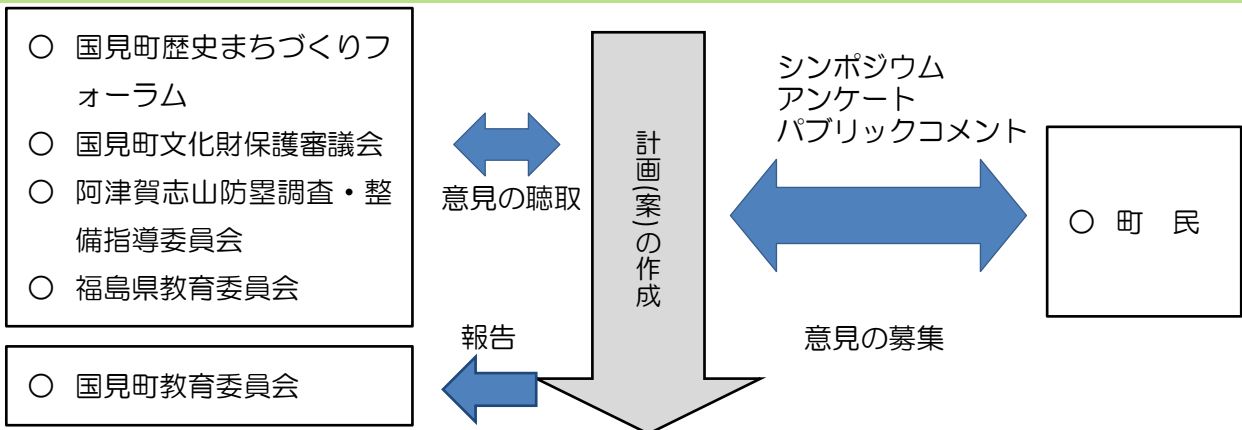
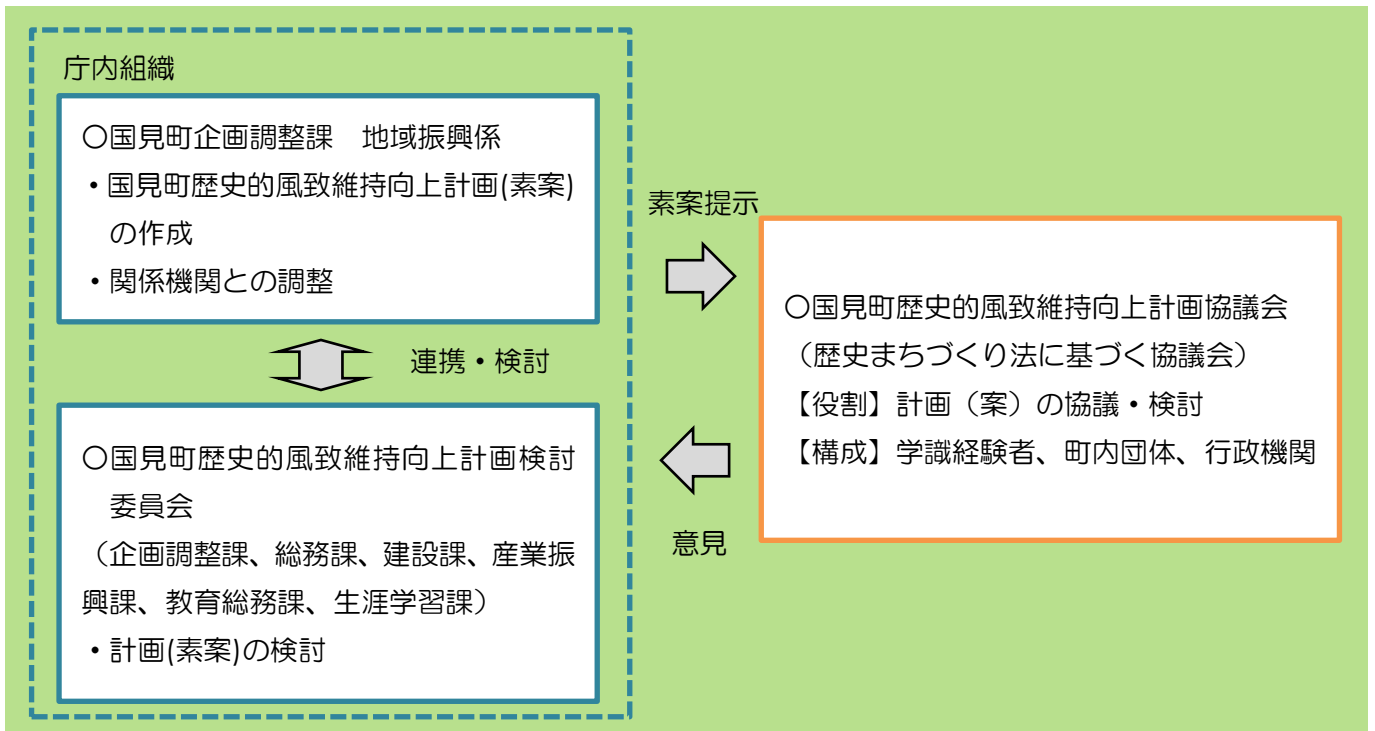
さらに、学識経験者や有識者等から構成した国見町歴史的風致維持向上計画協議会における協議、関係機関からの意見聴取及びパブリックコメント等による町民への意見の募集を経て計画を策定した。



■国見町歴史的風致維持向上計画検討委員会



■国見町歴史的風致維持向上計画協議会



■国見町歴史的風致維持向上計画(第2期)策定の体制図

■「国見町歴史的風致維持向上計画協議会」の構成（令和7年2月末現在）

	No	氏名	所属	分野
学識 経験者	1	柳原 敏昭 (会長)	東北大学大学院文学研究科教授 阿津賀志山防墨調査・整備指導委員会副委員長	日本中世史
	2	平井 太郎	弘前大学大学院教授	地域社会学
	3	長田 城治	郡山女子大学准教授 国見町文化財保護審議会委員	建築
	4	仲田 茂司	有限会社仲田種苗園 代表取締役 元 三春町歴史民俗資料館学芸員	考古学・造園
歴史的建 造物識者	5	齋藤 隆夫	福島県建築安全機構 参与 ヘリテージマネージャー	歴史的建造物 の保存・修復
地元識者	6	中村 洋平 (副会長)	国見町歴史まちづくりフォーラム会長 国見町郷土史研究会会長	郷土史
行政	7		福島県土木部まちづくり推進課長	まちづくり
	8		福島県教育庁文化財課長	文化財保護

4. 計画策定の経緯

(1) 第1期計画

日付	項目(会議名等)	主な内容など
平成20年11月4日	地域における歴史的風致の維持及び 向上に関する法律の施行	
平成23年3月11日	東日本大震災（震度6強）	
平成27年1月22日	国見町歴史的風致維持向上計画認定 の申請	
平成27年2月23日	計画の認定	
平成28年4月28日	計画の軽微な変更の届出	
平成29年5月31日	計画の軽微な変更の届出	
平成30年5月31日	計画の軽微な変更の届出	
令和元年5月31日	計画の軽微な変更の届出	
令和元年10月12日	東日本台風（浸水被害）	
令和2年	新型コロナウイルス感染症拡大	
令和3年2月13日	令和3年福島県沖地震（震度6強）	

令和2年6月26日	計画の軽微な変更の届出	
令和4年3月16日	令和4年福島県沖地震（震度6強）	
令和4年4月	町内全域が過疎地域指定	
令和5年3月3日	計画の変更認定申請	事業の削除等
令和5年3月30日	計画の変更認定	

(2) 第2期計画

開催日	会議名等	主な検討内容
令和6年5月2日	国見町歴史的風致維持向上計画検討委員会	次期計画の策定について
令和6年5月31日	第11回国見町歴史的風致維持向上計画協議会	第2期計画の策定とスケジュールについて
令和6年7月28日	第15回歴史まちづくりシンポジウム	第1期計画の成果と歴史的建造物について
令和6年8月27日～ 令和6年9月30日	歴史まちづくり計画の評価に関する町民アンケートを実施	第1期計画の最終評価に向けた町民アンケート
令和6年10月19日	第16回歴史まちづくりシンポジウム	第2期計画の策定と今後の歴史まちづくりについて
令和6年11月25日	国見町歴史的風致維持向上計画検討委員会	第2期計画（素案）掲載事業について
令和6年12月4日	第12回国見町歴史的風致維持向上計画協議会	第2期計画（素案）について
令和6年12月17日	国見町文化財保護審議会	第2期計画（素案）について意見聴取
令和6年12月20日～ 令和7年1月20日	パブリックコメントの実施	第2期計画（素案）について
令和7年1月13日	計画（素案）に係る住民説明会	第2期計画（素案）の内容について説明
令和7年1月22日	国見町歴史的風致維持向上計画検討委員会	各事業のスケジュールについて
令和7年1月24日	第13回国見町歴史的風致維持向上計画協議会	第2期計画（素案）について・町長への建議

令和7年2月21日	町による計画の策定と計画 認定の申請	
令和7年3月21日	計画認定	